

人文地理学概論Ⅱ

人文地理学概論

Introduction to Human Geography II

FUJII Takehiko

藤井 毅彦

科目ナンバリング：DEC-2-360-06/DIB-2-431-06/DIS-1-351-06/DLP-2-365-06

商学部：「卒業認定・学位授与方針」で謳う「幅広い教養」を身につける為の科目



■授業の目的及び到達目標

本講義は将来、地理の授業を担う学生を対象としている。中学・高校の地理では、広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する基礎力を培うことが求められている。前期・後期を通じて人文地理学の概括的な知識と方法を身に付けることを目的に、多様な地図や統計等を読み解く多角的な視点を得ることを到達目標としている。

■授業計画

- 1 人文地理学の研究領域
前期で取り扱ったテーマの内容を踏まえつつ、人文地理学のより広い研究領域について説明する。
- 2 観光①
余暇と観光に関する基本概念を踏まえつつ、その地域の特徴を理解する。
- 3 観光②
観光に関連したさまざまな地域問題を理解する。
- 4 集落①
集落の立地と起源について概観する。また、集落の形態と機能を理解する。
- 5 集落②
業務機能や商業機能など、さまざまな機能から構成される都市の内部空間を理解する。
- 6 民族①
世界の民族について、その地域の特徴を理解する。
- 7 民族②
人種・民族に関わる複雑な問題とその背景を、地域の視点から理解する。
- 8 交通・通信①
日本および世界の交通発展状況について理解を深める。
- 9 交通・通信②
情報化の進展およびグローバル化に伴う地域変容について理解する。
- 10 資源・エネルギー・環境問題①
「資源」とは何なのか、私達の生活とどう関わっているのかを理解する。
- 11 資源・エネルギー・環境問題②
環境問題の歴史を概観するとともに、環境政策と地域の関わりについて理解する。
- 12 さまざまな地域課題
現代社会におけるさまざまな地域課題に関する人文地理学のアプローチ手法を総括し、議論することで人文地理学の多角的視点について理解を深める。
- 13 まとめ
学期試験とそのフィードバックとしての解説。

■授業の方法

講義形態を基本とするが、各講義で取り扱うテーマに関して積極的なグループディスカッションやグループワークへの参加が求められる。さらに各テーマに即した課題に取り組んでもらうことで学生の理解を深めていく。※講義内容は進行状況によって前後する可能性があります。

■予習・復習

【予習】授業計画の各テーマについて教科書を読み、日頃から時事問題にも注目して下さい。

【復習】講義内容の要点を整理し、講義で行った課題の趣旨や内容も再確認してください。

(合計1時間)

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

授業参加(グループディスカッション・リアクションペーパー・課題など) 60%、レポート・試験 40%

※レポートの未提出、試験の未受験は評価対象外となってしまいますのでご注意ください。

■教科書・参考書

【教科書】新詳地理資料 COMPLETE 2026 (帝国書院)

【参考資料】適宜配布

色鉛筆(3本程度)をご持参いただくとよいと思います。

■関連する科目

人文地理学概論Ⅰ, 人文地理学

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）

担当教員は、総合商社およびベンチャー企業において、地理空間情報・GISの商業利用推進に関する日本・米国・中国での実務経験を有し、当該科目における産業や経営の実情に関して教授します。